

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市泉岳自然ふれあい館
2 指定管理者	株式会社オーエンス
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数(延べ)》79,759人(前年度比 116%) 令和4年度 本館:30,442人、市民キャンプ場:8,923人、休憩コーナー:38,124人、古民家:2,270人 令和3年度 本館:25,367人、市民キャンプ場:6,865人、休憩コーナー:34,517人、古民家:2,223人 令和2年度 本館:20,336人、市民キャンプ場:5,917人、休憩コーナー:30,850人、古民家:2,810人 《事業》 ○受入れ事業 本館:349組 延べ26,706人(小学校、中学校、子ども会、家族、幼稚園、保育園、他) ○主催事業 58事業:延べ1,694人 ※ボランティア事業含む ○野外活動ボランティア事業 養成講座修了者:15名、登録者:79名、ボランティア支援:78回 延べ270名
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 146,572千円 (136,373千円) ・ その他市が負担した費用 8,308千円 (5,488千円) 《収入》 ・ 利用料金収入 7,246千円 (4,899千円) ・ その他収入 26,334千円 (18,883千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート(R4.4.3～R5.3.26に実施)

二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	教育委員会が定める運営の基本方針に加え、指定管理者独自の基本方針が策定されており、その周知も行われている。また、休憩コーナーの売店、泉ヶ岳及び周辺地域の特色を生かしたオリジナル商品や地元商品の販売を積極的に行っており、泉ヶ岳及び周辺地域の活性化に大きく寄与している。	33/30
II 施設の運営管理体制	開館時間、指定管理料の執行状況等は仕様書に則っており適正である。個人情報保護及び情報セキュリティ対策については、必要な対策が講じられている。また、事故防止や災害発生時対策について、マニュアルが整備され、十分な対策が講じられている。	29/29
III 施設・設備の維持管理	施設内の備品の一部に備品シールが貼られていないものが見受けられたものの、建物・設備に目立った損傷は見られず、発見された不具合についても迅速な報告をはじめ適切な対応が図られており、利用者が安全に利用できる状態が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	職員のマナーについては、マニュアルの整備、研修の実施等により適正である。施設の利用情報の提供については、ホームページやテレビ番組、リーフレット、新聞、フリーペーパー等により周知が図られている。また、利用者アンケートを実施し、利用者の意見を取り入れた改善を検討する等、サービス向上の取組みも行われている。	28/28
V 施設固有の基準	主催事業の申込方法にgoogleフォームを取り入れることにより、仕様書の基本方針にも明記されている業務の効率化をより少ない費用で実現している。野外活動ボランティアについては、仕様書のとおり適正に行われており、特に養成講座を前年度より回数を増やして実施することにより、より多くのボランティアを育成・登録することができている。	23/22

三 評価総括

《指定管理者（株式会社オーエンス）による自己評価》
<p>新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しない一年間だったが、休館することなく運営することができた。その中で年間利用人数の目標を延べ70,000人と設定していたが、3月末で79,759人の利用があり、昨年度より16%の増となった。特に本館利用では約5,000人、休憩コーナーの利用では約4,000人の増加となり、市民にとって泉岳自然ふれあい館が泉ケ岳の拠点として担う役割がさらに大きくなったといえる。</p> <p>今年度の主催事業は、天候の関係で4事業が中止となったが、それ以外の主催事業はすべて実施することができた。特に新規事業「登山女子・夏」、「登山女子・秋」では、泉ケ岳の魅力や登山の楽しみ方を女性限定で体験する事業だったが、募集人数をはるかに超える応募があり大好評の事業となった。初めて登山をする参加者が大半で、「女性一人では不安なためこれまで登山ができなかったのがよい企画だった」「登山をする知り合いがいなかったため、新しい友達ができうれしかった」という声が多く聞かれた。これからも泉ケ岳の自然体験活動の魅力をより多くの人に届けられるよう活動内容を工夫していきたい。</p> <p>ボランティア養成講座では、これまで年間5回の講座をすべて受講しなければ野外活動ボランティアとして登録できなかったため、昨年は2名、一昨年は3名と新規登録者が低迷していた。そこで今年度から、1泊2日でボランティア活動の基礎講座を1回講習することで、ボランティアとして登録できるようにした。また、基礎講座の開催を年1回から春と夏の2回に増やしたところ、春11人、夏5人が参加し、大学生や勤労者など若い世代のボランティアが登録できたことは大きな成果といえる。</p> <p>今年度の実績におごらず、「また来なくなるふれあい館」を合言葉に、利用者、ボランティア、また、職員にとってもより満足できる施設運営を心掛けていく所存である。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和4年度は、新型コロナウイルス感染症が完全に収束しない中ではあったが、延べ人数で年間利用者数8万人弱と、目標値を上回る盛況ぶりであった。</p> <p>新規の主催事業である「登山女子」が大好評であったことも、利用者増加の要因の一つとなっていると考えられる。この事業は、登山をはじめとする自然体験活動に対する関心の高まりや、登山に興味があっても不安や事情があつて登る機会がないといった声等、市民ニーズに合致し、的確に応えることができた事業であったといえる。今年度は休館期間もなく、天候の関係で中止となった一部事業以外は、主催事業を全て実施することができ、当施設が市民にとってより身近な施設になっていることがうかがえる。</p> <p>また、当施設の休憩コーナーの軽食堂及び売店において、泉ケ岳及び周辺地域の特性を活かしたオリジナル商品の企画販売を実施した。休憩コーナーは多様な利用者が訪れる場所であり、この取組みの実施は幅広い世代へ向けての試みとして大変有効であり、泉ケ岳及び周辺地域の活性化に寄与した取組みといえる。取組みの成果として、売上収入を昨年度と比較すると、軽食堂は754,320円増、売店は853,558円増とそれぞれ大幅に増収となっており、新商品の販売が売上増加へつながっている。</p> <p>実施した利用者アンケートの集計結果を分析すると、施設を知ったきっかけについて、家族・個人の利用者はホームページを見たという割合が約5割を占めており、広報力の強さと更新の重要性が分かる結果となっている。職員の対応や清掃状況については、9割以上の利用者が「満足」「やや満足」と回答しており、自由記載でも「丁寧な対応で、安全に過ごすことができた」「荒天によるプログラムの変更や、利用者の準備不足・不備に対して迅速に対応してくれた」「非常にきれいな施設で、快適に過ごすことができた」等の声が聞かれた。</p> <p>コロナ禍で拡大したアウトドアブームの影響はしばらく続くと思われる。自然体験活動を通して、今後も児童生徒の健全育成と一般市民利用者の生涯学習活動の振興の一翼を担っていく安心・安全な施設づくりを期待する。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項
<p>前年度に引き続き、「新型コロナウイルス感染防止対策マニュアル」に基づいた、館内での感染防止対策に関する掲示、職員間の情報共有により、感染防止対策を十分に講じた上での施設運営ができています。</p>

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局生涯学習部生涯学習課